

自動運転のある暮らし

誰もおいていかない
移動のデザインとその倫理

今からおよそ100年前、自動車がまちを走り出したとき、私たちの暮らしは大きく変わりました。働き方、休日の過ごし方、まちの景観、物流、さらには歩行者のルールまで、いまでは自動車なしの生活は考えられません。もちろん、渋滞、交通事故、排気ガスといった私たちにとっての課題もあります。

では、自動運転は？
新しい仕事、まちづくり、そしてライフスタイル。思いもよらない新しい可能性や課題が生み出されることになるかもしれません。

ちょっと先の未来をみなさんと一緒に考えました。

ワークシートに書かれた参加者のメモ



日時：2018年12月9日(日) 13:30~16:30
場所：京都府立京都学・歴史館 1階小ホール
主催：日本生命倫理学会
共催：大阪大学 CO デザインセンター、
公共圏における科学技術・教育研究拠点 (STiPS)

テーマについて知る


- ワークショップ趣旨説明
全体進行の山崎吾郎（大阪大学 CO デザインセンター 准教授）より、ワークショップの趣旨説明がありました。
- 参加者間の自己紹介
「自動運転技術ときいてパツと思いついた身近な人は誰？」という問いかけから自己紹介を始めました。対話のための準備運動です。
- 自動運転についての情報提供
対話ツールを用いて自動運転技術の概要について説明を行いました。

自分ごととして語る

- ワークシートへの記入
「暮らしの中で、自動運転技術をどのように活用したいですか？」という問いかけに対して参加者それぞれに考えを記入してもらいました。
- グループでの対話
記入したワークシートを使って、お互いの考えを共有しました。

新しい視点を知る

●ゲストからのコメント
ここまでのグループ対話の内容を受けて、ゲストからコメントをいただきました。

**辰井聡子さん**
(立教大学法務研究科 / 法学研究科 教授)

先進的な技術の問題を考えるときには、専門的な知見（技術的な知識や規制面での知識）からの議論が先行しがちではあるものの、生活実感に基づいた市民1人1人の倫理感も大事にしてほしいですね。

社会について語る

- ワークシートへの記入
「誰もおいていかない、移動のデザイン？」という問いかけに対して参加者それぞれに考えを記入してもらいました。
- グループでの対話
記入したワークシートを使って、お互いの考えを共有しました。

まとめ

- グループ対話発表
グループ内で話した内容の概略を全体で共有しました。
- 総括コメント
ゲストのお二人からの総括コメントがあり、ワークショップを終了しました。



今では当たり前に使っている技術もそれぞれの導入の時期にはどれも「新規技術」だったはずで、過去の「新規技術」の導入の歴史的な経緯に学ぶこともできるのではないのでしょうか。

**岸本充生さん**
(大阪大学データビリティフロンティア機構 教授)



大阪大学 STiPS のつくる「対話の場」

大阪大学 STiPS では、社会への導入に向けて研究・開発が進められている「萌芽的技術」をテーマに、一般の人々が集まって対話をするワークショップを実施しています。

生体認証やビッグデータ、人工知能、そして自動運転。これらの萌芽的技術は、私たちの生活や社会をどのように変えてゆくことになるのでしょうか。

ワークショップに参加する方の動機はさまざまです。ワークショップのテーマとなっている技術に強い関心がある。技術について報道などで見聞きして、気になっている。関係する倫理や法律について知りたい。自分はこの技術についてこんな風に考えているんだけど、他のみんなはどう思っているんだろう？

ワークショップでの対話を通じて、一人で考えているときには思いもよらなかった意見に出会うことがあるかもしれません。これまで技術について自分が持っていた断片的な知識が、新たな知識と結びつき、技術についてより俯瞰的な視点を持てるかもしれません。技術の導入に対して何の懸念も無かったのに、もやもやとした気持ちが生じてくるかもしれません。または逆に、不安や心配に感じていたことが些細なことに思えてくるかもしれません。

ワークショップに参加することの意義は、参加者の一人一人にとって異なります。大阪大学 STiPS では、ワークショップに参加して下さる方のそれぞれに、それぞれの理由で「参加してよかった！」と思っていただけるような対話の場をつくっていきたくと考えています。